

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームなの花すながわ(1号館)	評価実施年月日	平成22年2月9日、12日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>以前、理念について再検討し、地域を意識した理念を掲げ、それと共にその人らしい生活を送れる理念を掲げている。</p>	○	<p>ホーム内に掲示してある理念の内容が古いままになっている為、作り直す。今後も理念について検討する機会を持ち、ふさわしいものとなっているか確認していく。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>名札の裏、休憩室に理念を書いた紙を掲示しており、いつでも職員の目の入る所にある。また、ケアする上での原点ととらえ、日々、理念に沿ったケアを心掛けている。</p>	○	<p>毎月のカンファレンスにて1人1人が理念に基づき支援しているか確認する。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>なの花新聞に理念を載せ、ホーム内に掲示している。また、ご家族や地域の皆様に配布し、理念が浸透する様に取り組んでいる。</p>	○	<p>運営推進会議で理念について説明する。なの花新聞を町内の回覧板に挟め、より多くの地域の皆様に見て頂く。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等で出た時に挨拶を交わしている。近所の方がホームに遊びに来て一緒にお茶を飲んで、談笑したり、野菜やお花を差し入れして下さる。</p>	○	<p>回覧板を利用しホームをより多くの地域の方々に知ってもらい、気軽に立ち寄れるよう、また、挨拶だけではなく遊びに来て頂けるように声掛けしていく。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会のゴミ拾いに入居者、職員必ず参加している。ホームのイベントに町内の方々が参加している。また、町内会にも入会している。</p>	○	<p>今取り組んでいる事は継続。今後は事業所側も町内会や、自治会に参加していく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>砂川市立病院附属看護学校からの実習生や、実践者研修の実習生の受け入れを行っている。</p>	○	<p>認知症地域社会資源マップに登録している事を周知してもらおう工夫をしていく。AEDを購入し、地域の方々を招いて講習会を開く。認知症サポーター養成講座開催。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価について職員会議で説明があった。また、職員全員が時間をかけて自己評価に取り組みその後全体で検討している。外部評価の結果は職員会議で報告があり、改善が必要なものは改善している。	○	マニュアル作成の途中であり、早急に仕上げる。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長及び、ご家族の方々の意見を聞き、サービスの向上に努めている。	○	地域包括支援センターの協力も得て、より良いサービスを実施していきたい。(先方との情報交換は出来ている)
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所の介護福祉課との連携を図り、情報交換を行って、入居者・ご家族との意見を取り入れている。	○	今後も従来通りの意見交換を密に行っていく。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	この様な制度を学ぶ機会は殆どなく、職員の認知度にばらつきがある。	○	研修会があれば積極的に参加する。研修会に参加した職員に職員会議で報告してもらおう。資料を各館に置く。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は虐待防止の意識を持っており、研修会にも積極的に参加している。参加した職員から職員会議で報告があり、職員全員が周知出来る様にしており、防止に努めている。	○	資料をもっと活用する。各館に資料を置いておく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際、事前にアセスメントを行い、事業所の重要事項の説明をし、施設に見学に来て頂いている。解約時は、入居者に関する全ての職種と連携し、十分な説明をし、理解・納得を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃のコミュニケーションの中で表情の変化や会話等から聞き取り、問題点を職員全員で話し合い改善している。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>日々の生活の様子や、職員の移動等、なの花新聞で定期的に報告している。個人の状況については大きな変化時はすぐに電話連絡し、他の事は家族が訪問してきた時に報告している。金銭管理は管理者が行い1人1人出納帳をつけ毎月ご家族にサインを頂いている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族が訪問してきた時に管理者や看護師、スタッフに言って下さり、話し合いを行い反映させている。また、苦情相談窓口を設置しており、文書化し掲示している。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議や個別的にスタッフの意見や提案を聞いており反映させている。また、本社に意見・苦情窓口があり休憩室に文書化して掲示している。</p>	○	<p>定期的に個人面談を行うと、より意見が聞けて反映出来ると思う。</p>
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>安全・安楽の体制が保てないと予測される時は、早急に話し合いをし、勤務時間の変更や業務見直し、スタッフを増員する等の対応を行っている。(日中の4人体制や入浴時の2人介助等)</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動は各館のバランスを考えて行っている。入居者を不安にさせないよう、その時の状況に応じた配慮も出来ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会の案内を回覧し、参加したい人を優先にしている。また、勤務表を確認しながら管理者がスタッフに個別的に参加する様勧めている。 日常の勤務の中でもその都度指導がある。	○	積極的に研修会に参加して行ける様にアプローチしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	中空知地域で認知症を支える会の研修会に参加し、同業者と情報交換を行っている。砂川市立病院の精神科のDrがホームに来て下さり、ネットワーク作りや、ケアに関する不安等を聞いて下さりサービスの質を向上出来る様取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務体制の把握を行い、管理者へ指示のもとストレスの軽減や改善に取り組んでいる。(親睦会・慰労会・勤務や業務の見直し・有給休暇等)		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	努力・実績等報告している。また、勉強会・講習会の開催予定の情報を提示している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談を受けた時には、見学に来て頂いたり、アセスメントを行い希望や利用に関してどう思っているのかを聞き、安心・納得のいくまで面談を行い安心して利用出来る様に支援している。また、利用前に体験入居も行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談を受けた時には、見学に来て頂いたり、アセスメントを行い希望や利用に関してどう思っているのかを聞き、安心・納得のいくまで面談を行い安心して利用出来る様に支援している。こまめに情報交換等を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族からの相談を聞き、場合によっては市役所への問い合わせを勧めたり、他施設の紹介等を行っているが、他サービスへの具体的な支援は行っていない。	○	他の事業所との連携を図り、継続的にサービスが利用出来る様支援していく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームの事前見学や体験入居等行い、ホームを知ってもらう事に重点を置いている。援助計画作成時にご家族とこまめに連絡を取り情報を共有している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者から季節の行事の迎え方や旬の野菜等の調理方法を教えて頂く事が多い。一緒に調理をしたり日頃のコミュニケーションの中で傾聴を心掛け、喜怒哀楽を共にしている。	○	1人1人の尊厳や、人生の先輩として尊重する事を忘れずに心身ともに安全・安楽に生活出来る様支援していく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	こまめに日常の様子を伝えており情報を共有している。受診の際はご家族も一緒に行き本人を支え、尚且つご家族の不安な事等を聞き軽減を図っている。また、身内に不幸があった時はご家族了承のもと管理者が立ち合い情報を共有し全体で本人を支援している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前のアセスメントで関係の理解に努め、個別にファイルし、いつでも見れる様になっている。ご家族の面会も居室にてゆっくり過ごせる様配慮している。外出・外泊・ご家族の宿泊も出来る様になっている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙、葉書等促してそれぞれの思いに沿った対応を行っている。ご家族と一緒に町の理美容に行ったり、信仰宗教の集まりに参加したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1人1人の出来る事、出来ない事を見極めて役割を持ち、皆様の役に立っている場面を見て頂き、各々が尊重出来る人であることを知って頂いている。孤立しそうな入居者にはスタッフが間に入りコミュニケーションを取っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	殆どが事業所から入院となりサービス終了となってしまう。入院先の病院には今までの経過や日常生活での様子を伝えている。	○	今後は本人・ご家族が安心出来る様、関係性を継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用し、日々の生活の中での会話や表情から思いを察し、その様子を記録しスタッフ全員で共有している。意思疎通が困難な場合は、ご家族から情報収集し本人本位で対応方法を考え、色々工夫しながら支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し入居前のアセスメントで全て把握出来る様に努めている。入居してからもコミュニケーションの中で情報を引き出せる様関わっている。また、個別にファイルを作成し、いつでも見れ、書き足せる様になっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日の様子を24時間シートに細かく記録し、排泄・水分も細かく専用のシートに記録し申し送りを行い把握している。また、有する力については3カ月毎に記入するB-3シートで把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は3カ月毎にモニタリングを行い、6カ月毎にスタッフ1人ずつ作成したE表を元に会議を開き意見を出し合い、ご家族の意見も踏まえた介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3カ月毎にモニタリングを行い、6カ月目に評価と見直しを行っている。期間内に変化があった場合は臨時会議を行い支援方法について検討し必要に応じて介護計画の変更を行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24時間シート、排泄表を毎日記録し個別的に状況を把握し情報を共有し本人本位の考えのもと、それぞれの見直しに活かしている。	○	記録の仕方にばらつきがある為、内容の濃い記録が出来る様、勉強会を行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医師の定期的な往診(歯科も含む)により、外来受診の負担が軽減されている。受診時はご家族対応が原則となっているが要望に応じてホームの看護師・管理者が同行している。訪問美容もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	救命講習や年2回の避難訓練を行い、消防署との連携を取っている。イベント時、ボランティアの協力を得て催し物(手品・日舞・琴)を行っている。	○	警察になの花新聞を持っていき、徘徊時の協力をお願いする。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスの利用は行っていない。	○	今後は地域でその人を支える事に重点を置き、他の事業者と協働しながら、様々なサービスの利用を検討していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は必要な場面が無く、協働出来ない。	○	必要となった場合は、地域包括支援センターと協働していける様、連携していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、ご家族の希望に応じた病院の受診を行っている。地域のDrによる定期的な往診もあり入居者1人1人をトータルで支えてくれている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医が直接ホームに来て勉強会を開催して下さったり、専門医の病院にて研修会が行われ多くのスタッフが参加している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師1名が勤務しており、入居者の健康管理をスタッフと共に行っている。受診・往診の対応や薬の管理を行い、医療についてのアドバイスもあり日常に活かしている。また、24時間連絡がつく様になっており急変時はすぐに連絡し指示を仰いだり、駆けつけてくれる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中、お見舞いに行ったり、ホームの看護師、管理者が病院関係者と連絡を密に取り情報を共有し、早期退院出来る様に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化・終末期に近づいてからしか話し合いは持たれていない。	○	今後は早い段階での話し合いを重ねて職員会議で情報・方針を共有する。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医の意見を踏まえ、重度化した入居者に対する支援の方法について職員会議で話し合い実践している。(終末期の支援はまだ行った事がない)	○	関係者を交えたカンファレンスの実施・方針を共有出来る書類や、マニュアル等の作成に努め、終末期にチームとして十分な支援が出来る様に努めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>別の事業所、病院等へ移り住んだ場合、関係者と連絡・話し合いを行っている。また、添書等を作成し、情報提供を行いダメージを防ぐ様努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者の尊厳が保たれる様、スタッフ1人1人自覚を持ち対応している。記録等の個人情報他の人から見えない場所に保管している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>支援の際は、入居者の希望を尋ねてから行っている。言葉だけではなく、身振り等も交えてその人に合った形で説明し自己決定出来る様に支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の体調や希望を第1に考え臨機応変に対応している。食事時間も長めに取りその方に合ったペースで対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご家族と馴染みの美容室へ行かれたり、月1回の訪問美容室で整える方が居る。イベント時には自ら化粧をしたり、スタッフの支援によって化粧をしたりおしゃれをしたりしている。</p>	○	<p>訪問美容室の時に髪の毛のセットだけではなく、顔剃りも行ってもらえる様、依頼していく。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一緒に献立を考え調理に取り組んでいる。時には先頭に立って頂き食材準備から味付けまで行って頂く事もある。自分の役割ととらえ、時間を見計らい自ら準備・片付けを行って下さる方も居る。多くの入居者に依頼の声掛けをし、楽しめる様に支援している。</p>	○	<p>1人1人の経験を生かし、今後も事故が起きない様に見守りし支援していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒はイベント時のみとなっている。タバコは体の事を考え自ら禁煙した入居者がいる。現在喫煙する入居者は居ない。飲み物・おやつは時間が決まっているが、自分の好きな場所で摂取出来る様、また自ら購入した物や、ご家族から頂いた物を食べ楽しめる様になっている。	○	飲酒が好きな入居者が居る為、機会を増やしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	毎日の排泄表の記入によりパターンを把握し、誘導が必要な方は誘導し、失禁やパットの使用回数を減少出来る様に支援している。失禁体操も取り入れている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回以上の入浴になる様支援しており、同性介助に努めている。1人1人の希望やタイミングを尊重し支援している。	○	入浴剤を使用し、心地よい入浴時間になるよう工夫している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その時の状況を見て、休息して頂いている。夜間良眠出来る様、就寝前はリラックス出来る雰囲気作りを行っている。また、なかなか寝付けない時はホットミルク等を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来ること・出来ないことを見極め、その人が経験してきた力や知恵を生かせる場面を1日の中で作っている。クラフト作成、カラオケ等、楽しみとなる事も提供している。	○	ホームの車でドライブに出掛ける。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の状況に応じて、本人がお金を所持し支払いや管理をしている。また、お金を使う機会が少ない入居者に対しては、お金を持つ事で安心して過ごせる様、その人に合った工夫を考え支援している。買い物外出を行事に取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自由に外に出られる様になっている。暖かい時期には中庭にテントを張り、椅子・テーブルを置いて思い思いに過ごせる様になっている。買い物の希望にも柔軟に対応している。近所へ散歩に行った時は、落取りも行っている。	○	ホームの車ででの外出の機会を増やす。ご家族の協力も得て、外出・外泊が増える様に支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地域のお祭りや、なの花畑の見学、りんご狩り等に出掛けている。ご家族との外出・外泊もいつでも出来る様になっている。	○	地域の行事(文化祭や音楽鑑賞会等)に、もっと参加していける様に支援していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話の使用を積極的に促し、ゆっくり電話出来る環境を作っている。手紙や葉書をポストに入れたり、やり取りが出来る様に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限が無く、訪問があった時には居室にてゆっくり過ごされる方も居れば、リビングで皆様と雑談しながら居心地良く過ごして頂ける様に工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束をしない様職員1人1人自覚を持っている。しかし、具体的な行為を職員全員が正しく理解出来ていない。	○	身体拘束の研修会に参加した職員から会議で報告はあるが、詳しく報告がある訳ではない。時間を設けて、勉強会を行って、日頃のケアに結びつけていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず自由に出入り出来る。夜間は防犯の為施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	行動範囲が広がる日中は空きケアにならない様、職員間で声を掛け合い見守りを行っている。外に出た場合や、居室で過ごす事が多い入居者に対しては個人の時間を大切に出来る様、危険が無い様に見守りしている。緊急時は隣のユニットの協力を得られる様になっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	物品を安全に使用出来る方には注意を促している。洗剤やチリ紙等、異食の恐れが予想される方に対しては見守りを強化し、危険を防ぐ取り組みを行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成中。その時の1人1人の状況に応じ、管理者や看護師の指示のもと防止に努めている。	○	早急にマニュアルを完成させる。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	以前、消防署の方による心肺蘇生法の実技指導があった。応急手当・初期対応のマニュアルを職員全員に渡しているが、訓練を定期的に行っていない。	○	様々な状態を想定して、定期的に訓練を行っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、火災訓練を行い火災報知器の対応方法について説明がある。地震・水害の訓練は出来ていない。また、地域の方の協力も得られていない。	○	消防署の方に地震・水害の時の対応方法を聞く。火災訓練時は地域住民の方にも協力を依頼していく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	施設長、管理者、看護師が対応している。また、必要時には介護計画に載せ、日頃のケアに結びつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	コミュニケーションを前提に、表情・仕草・雰囲気も合わせて細かな様子観察を行っている。変調時はすぐに看護師へ報告し指示を仰ぎ対応している。記録し申し送りを行い全体に周知している。定期的に血圧・体重測定を行い、毎日の食事摂取量把握、排泄シートの記入を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬支援方法はスタッフ間で統一されている。薬の変更時は看護師からの申し送りと記録にて把握。副作用等の情報については個人ファイルに保管されており、いつでも見られる様になっているが理解度にバラつきがある。	○	職員1人1人が意識して個人ファイルに目を通す様にし理解に努める。薬に関する知識を増やせる様、勉強会を行う。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝、牛乳とプルーンを摂取。食事では繊維のある物が入る様工夫している。毎日、体操や散歩、廊下歩行を行い体を動かす機会を作っている。水分摂取量が把握出来る記録を行っている。腹部マッサージも行っている。	○	冬場は体を動かす機会が少なくなる為、レクリエーションを行っていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の声掛け、デンタルフロスや舌苔ブラシ、義歯洗浄剤の使用等、1人1人に合った方法で口腔ケアを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量、水分量は観察・記録により把握出来ている。1人1人の状態や力に合わせ、食事の形態を変え、食器を考慮している。	○	定期的に栄養のバランス、カロリー、体重の増減も合わせて、栄養士からアドバイスを頂く機会を作る。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時に感染症の有無を確認。感染予防マニュアルがあり、各館に保管している。日頃から手洗い・消毒を行っている。毎年インフルエンザ予防接種を入居者、職員全員行っている。また、感染予防の講習に参加した職員から会議にて報告がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・調理器具・布巾は毎日消毒。食事前にはテーブルを消毒している。食材購入時は新鮮な物を見極め賞味期限確認も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関や建物周辺に季節の花を植えている。毎朝、玄関掃除を行い、清潔に心掛けている。履き物の脱ぎ履きがし易い様、玄関に椅子を置いている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや廊下には季節ごとの手作りの作品を展示している。テレビの音量に注意を払い居心地良く過ごせる様に工夫している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング横に和室があり自由に出入り出来る様になっている。窓際に椅子を置き、共用空間の中でも1人になれる様工夫している。また、長ソファを置いており、気の合った入居者同士で過ごせる様になっている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みの物を持ってきて頂いている。ご家族との写真等も飾り、居心地良く過ごせる様に工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレ以外の場所もこまめに換気している。温度・湿度計を各居室と共用スペースに設置しており細かな調整を行っている。加湿器・濡れタオルも設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はバリアフリーになっている。居室以外の至る所に手摺りを設置。居室内のクローゼットはその人の身体機能に応じて扉を調整している。居室内の家具等の配置もその人の身体機能に合わせて移動をしている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入り口には表札を掲げている。トイレの場所が解る様に矢印等を壁に貼り、工夫している。混乱しない様、居室に頼りにされているご家族の名前や住所、電話番号を記入した紙を居室内に貼ったり、カレンダーに受診の予定や面会に来られた日に印をつけている。	
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏には中庭にテントを張り椅子・テーブルを設置し自由に外に出て楽しめる様になっている。また、花壇や畑があり草むしりや収穫が自由に出来る様になっている。	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ◎ ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ◎ ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ◎ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ◎ ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ◎ ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ◎ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ◎ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ◎ ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ◎ ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ◎ ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ◎ ③職員の1/3くらいが ◎ ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ◎ ②利用者の2/3くらいが ◎ ③利用者の1/3くらいが ◎ ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ◎ ②家族等の2/3くらいが ◎ ③家族等の1/3くらいが ◎ ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

介護計画と24時間シートが連動しやすい様に、1つのファイルになっており、いつでも目に通せケアに取り組みやすい様になっている。